

# バイオディーゼル燃料に大変身



ペットボトルなどの容器に入れて回収

市では、資源を再利用し、環境に配慮した生活を推進するために、リサイクル運動の奨励やごみ減量器具設置費補助などのさまざまな取り組みをしています。今回は、その中から、使用済み天ぷら油の回収についてお伝えします。

## バイオディーゼル燃料で車が走る!?

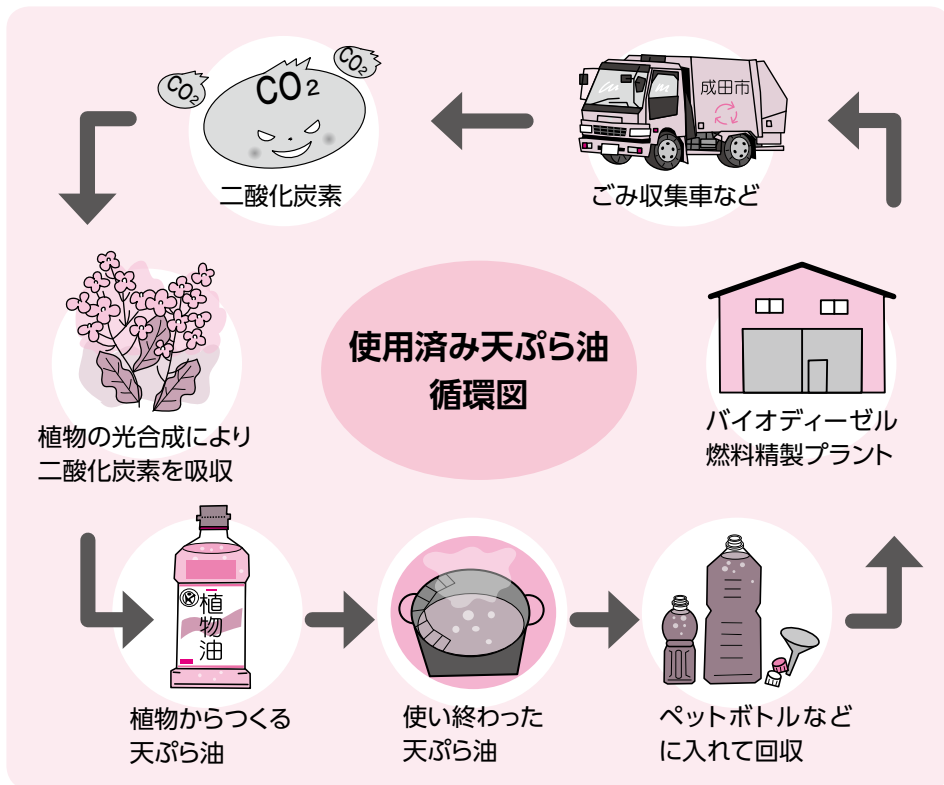
皆さんは、使用済み天ぷら油をどのように処理していますか。市では、家庭から出る使用済み天ぷら油を資源として再利用するために、市内15カ所で回収を行っています。これは、平成20年度に始まったもので、平成21年度には約2、470リットルの使用済み天ぷら油が回収されています。皆さんから集められた使用済み天ぷら油は、現在、バイオディーゼル燃料に変える民間業者に引き渡されています。

バイオディーゼル燃料とは、植物油を燃料化したもので、軽油の代替燃料として、ディーゼルエンジン

ジンに使用することができます。使用済み天ぷら油は、そのまま燃料として使用することは不可能ですが、化学反応などによって精製することで使用できるようになります。



市内にある精製プラント



実際に、市内のごみ収集車の一部にも、このバイオディーゼル燃料が利用されています。

バイオディーゼル燃料は、使用済み天ぷら油の原料である植物がその成長過程で光合成によって二酸化炭素を吸収していることから、通常の軽油より環境に優しい燃料であるといわれています。

**身近な「ごみ」も集めれば大事な資源**

環境問題に対する取り組みは、わたしたち一人一人の心掛けから始まります。皆さんも、日常生活を振り返ってみてください。身の回りには、捨ててしまえば「ごみ」になるものでも、リサイクルすれば

大切な資源に生まれ変わるものがたくさんあるはずですよ。

ペットボトルが繊維などへ、古紙が再生紙へと再利用されるように、天ぷら油も燃料として再利用可能な、大事な資源です。「ごみ」として捨ててしまわずに、ぜひ回収にご協力ください。

使用済み天ぷら油の回収は、次の通り行っています。

**回収方法** 中身をすすいで、水気を切ったペットボトルなどのふたが閉まる容器に、十分に冷えた使用済み天ぷら油を入れ、回収場所へ

**回収場所** クリーン推進課(市役所2階)、下総・大栄支所農産土木課、各公民館(中央・公津・成田・中郷・遠山・豊住・久住・八生・加良部・橋賀台・玉造)、美郷台地区会館

**受付日時** 毎月第4水曜日(祝日の場合は翌日) 午前9時～午後5時

回収できるのは、サラダ油・菜種油・ごま油などの植物油です。未使用で賞味期限が切れた油も回収します。ただし、事業系の油、ラードなどの動物性の油・機械油などは回収しません。

※くわしくはクリーン推進課(☎20-15330)へ。

## 植物の栽培から循環型社会へ

### 下総高校「ひまわりエコプロジェクト」

下総高校では、生徒たちに、循環型社会づくりや地球温暖化対策を理解してもらおうと、平成22年度から「ひまわりエコプロジェクト」に取り組んでいます。

このプロジェクトは、5月にヒマワリの種をまき、夏場はきれいな景観を楽しみ、花を觀賞した後は種を絞って植物油として利用し、その使用済み油は、バイオディーゼル燃料として再利用し、同校のトラクターの燃料にするというものです。このプロジェクトには、景観づくり、食料自給率向上、耕作放棄地の減少などさまざまな効果があり、同校の山本茂樹先生は「ひまわりエコプロジェクトを通して、植



ヒマワリの生育状況をチェック

物を育てるだけでなく、環境問題についても学んでもらいたい」と語っています。

このプロジェクトに参加した米本周代さん(2年生)は「このプロジェクトでは、わたしたちが手間ひまかけて育てたヒマワリが植物油となり、その後、授業で使用するトラクターの燃料として利用されます。使った油を捨てないで再利用できるのは、とてもうれしいことです」、田嶋寛之さん(2年生)は「ヒマワリの成長過程で、雑草を取るのに苦労しましたが、取れた油を文化祭での調理に使ったときは、うれしかったです。これからこの廃食油がバイオディーゼル燃料になるのが楽しみです」と話していました。



絞油を体験